



『東北地方』ってなに？

先週末から今週にかけて、約五日間体調を崩して寝込んでおりました。

家族全員が発熱したり咳き込んだりしたので、てっきりコロナかと思いましたが、抗原検査でも病院の診察でも結果は陰性。

見立てとしては、「ひどい風邪」とのことです。

これほど体調を崩したのは数年ぶりのことであり、熱はどうにか下がったものの今も満足に声が出せない状態が続いています。

みなさんも、今年の風邪にはどうぞお気を付けてください。（風邪で欠席する子たちも増えてきています）

さて、私が休んでいる間にも学校生活はちゃんと進んでおり、スポーツフェスティバル等諸々のイベントの準備も進められたようです。





写真は、一年生の学年競技「借り人競争」の様子です。

スタートをしてからカードのあるところまで走っていき、そのお題に当てはまる方を会場から探し、見つけた後は手をつないでゴールイン！

という極めてシンプルな競技ルールです。

この競技を成功させるには、会場に来られた方々の温かいご協力が欠かせません。

競技が始まりましたら是非、お題のカードをめくった子どもたちのところにすぐに駆け付けてもらえるように準備をしていただけると助かります。

おそらく、見に来られた方々は全員何らかのカードに当てはまるようになっているはずです。

というのも、お題のカードを学年全員分考えることがこの競技を作る上でもっとも大変だったからです。

アイデアを絞りに絞った末、結果的にすべてのカードで一度も当てはまらない人はいないだろうというテーマの布陣になりました。

全部は出しませんが、その一部を紹介します。

サングラスをかけている人 スカーフを巻いている人

帽子をかぶっている人 ジーパンをはいている人

ドラゴンズファン ジャイアンツファン

さそり座の女性 かに座の男性

東北地方出身 近畿地方出身

赤い服を着ている人 青い服を着ている人 白い服を着ている人
名前に「田」が入っている人 名前に「山」が入っている人
野球経験者 ラグビー経験者 フルマラソン経験者
英語が話せる人 中国語が話せる人 日本語が話せる人

子どもたちがめくったカードは、私がすぐさまマイクで読み上げます。

その後、子どもたちはお題をもったカードを掲げながら、当てはまる方々を探しに行きゴールを目指すという流れです。

上のお題は、全体の4分の1ほどですが、おそらくどれかにはみなさん当てはまっていることと思います。

尚、1年生の子どもたちにとっては、「東北地方」「ドラゴンズファン」などと聞いても分からないかもしれませんが、この「分からない」という知との出会いこそが大切です。

東北地方を引いた子は、自然と「東北地方って何？」となるはずです。

都道府県を勉強するのは4年生ですが、そこまで待つ必要はどこにもありません。

鉄は熱いうちに打て、といいます。

疑問を持った時こそが、学びの旬ともいえるでしょう。

「日本という国は、全部で8つに分けることができね…」

「そのうちの 하나가『東北地方』というんだよ」

「ちなみに私たちが住んでいるのは、『中部地方』でね…」

のような会話が生まれれば最高です。

そうした意味でも、カードの意味が分からないということが「知への扉」を開くチャンスになったりします。

引いたカードの中には、「漢字」への知の扉があれば、「人気球団」という地方に関連した情報につながる知の扉もあり、「身に着けるものの名前」「色」「スポーツの種類」「星座」「言語」など色んな方面に興味が広がるようにお題を配置してあります。

当日は、保護者の方が多数来て下さるそうなので、多くの方のご協力をお待ちしています。

もちろん、競争には何度出ていただいても大丈夫です。

お子さんたちと手をつないで、楽しくゴールを目指してもらえたらと思います。

当日、どうぞよろしくお願ひします。（渡辺道治）

（ご意見ご感想などいつでも気軽にお寄せください。お待ちしております。）



[1 学年通信「コスモスハーモニー」読者ページ \(google.com\)](#)